

第47回日本ストーマ連絡協議会 議事録

日時：2021年3月30日(火)17:30-18:00

場所：コロナ禍により、zoomでの開催

進行：ストーマ用品セーフティーネット連絡会 当番幹事 株式会社 ホリスター

議事：ストーマ用品セーフティーネット連絡会 副当番幹事 コロプラス株式会社

参加(敬称略)：JSSCR-前田耕太郎、幸田圭史、後藤百万、靱山こずえ

JWOCM-田中秀子、松原康美

JOA-木下静男

OAS-秋葉晃子、中村早苗(進行)、内藤寿真子、シディキ佐衣子(議事)

合計11名

1. 活動報告

1) JSSCRより

幸田： ①2月26日・27日に第38回の学会総会を福岡にてハイブリッド形式で開催し、大多数の方はオンラインで参加した。懇親会は実施せず、最終的な参加者は1600名であった。
②現在JIS規格が規定しているストーマ用品に関する用語は1970年代に穴澤貞夫先生などがまとめられたものだが、新たな用品も出てきているため改訂の必要がある。一方、国際的なISO規格にもストーマ用語があるため、JSSCR用語委員会が中心となり、JIS、ISOとともに今年中にこの3つを統一していくため、第1回準備委員会が開催された。厚生労働省、経済産業省も関わっており、まとめられた内容はJOAの皆さまにも御覧いただきたい。

靱山： 学会ホームページに災害対策13ブロックの代表、および各都道府県代表・副代表の名前と連絡網を掲載し、今後も最新のものに更新していく予定である。OASにおいても各エリアで災害が起きた際に連絡を取る担当者として周知徹底してほしい。

2) JWOCMより

田中： 2020年5月に、原三信病院の柳迫看護部長が会長を務められて学会総会をウェブで開催。参加者は1ヶ月のオンデマンド配信期間も含めて1800名となった。例年の参加者が2000名なので、リアル開催とほぼ同数となり、参会者の都合に合わせて希望する講演を全て聴講できたとの声もあった。

第30回となる学会は7月3日・4日に東京大学の真田先生を会長として、東京の京王プラザにてハイブリッドで開催する。アジア9か国のET会議であるAPETNAの開催も、日本がホスト国として持ちまわり最後となり、第9回を同時開催予定。APETNAに関しては、海外からの来場は難しいため、オンラインで実施。事前アンケートでは、約500名の直接会場へ集まったの参加が見込まれる。最先端の東京大学での成果発表に加えて、郷ひろみさん、内田春菊さんがご講演予定。

2020年度は委員会も全てウェブで行い、予算はほぼ未使用の1年だった。

山梨大学で開催された下部尿路症状の排尿ケア講習会も県外向けにはオンラインで開催され、診療報酬算定には講習会参加が必要なこともあり、400名の参加を得た。

3) JOAより

木下： 谷口会長は体調不良、川村副会長も本会には不参加

第33回全国大会は6月12日・13日に山口で開催予定だったが、コロナ禍が続く中、参加者の高齢化も考慮し、中止とした。第34回は石川県金沢市で開催予定。定時社員総会は6月に書面による決議を予定している。

これまでオストメイトの災害時対策マニュアルがなかったので作成し、各支部長に配布。5月号の会報誌に掲載予定。靱山さんにもご確認いただきたい。

4) OASより

中村： 令和2年度は幹事ホリスター、副幹事コロプラストで担当させていただき、年間を通して7月の大雨災害時に46名、74箱、約32万円の補償を行った。2月の福島県沖の地震では余震が懸念されたが、販売店さまからのご要望はなかったため、1ヶ月が経過したところで補償は行われなかった。12月の大雪や、3月の地滑りなど、災害の種類も多様化している。

令和3年度のOASからのご連絡は、JSSCR 靱山先生、JWOCM 松原先生、JOA 谷口会長宛で良いかをご確認いただきたい。OASではコンバテックが1月に移転し、災害時対応の手引きの連絡先電話番号を変更した。

幸田： JSSCR事務局が3月に変更するため、4月に改めて連絡をいただきたい

靱山： 災害時対応の手引きは、今後も各自が学会ホームページからダウンロードの上、印刷して使う形で継続していくのか。

秋葉： 4月9日のOAS総会で増刷の検討を行うのが良い。

靱山： 以前は数千冊を印刷して各社から販売店に渡していた。販売店が支援について把握していないために動きが遅かったケースもあり、冊子での配布説明が大切と思われる。

次回：2021年7月20日(火) 17:30～、恐らくMicrosoft Teamsにて開催

次回からは、幹事会社がコロプラスト、副幹事がアルケアとなり、1年OASから参加させていただく。